

なつやしゅん

同熟性、圃場貯蔵性及びジュース色調が優れた多収性品種です。

長野県野菜花き試験場育成

育成経過



加工トマト栽培においては、収穫コストの低減と収穫の軽作業化が重要な課題である。その対策として機械収穫が検討され、実用的な半自動型収穫機が開発された。そこで、機械収穫に適した同熟性、圃場貯蔵性、草姿のコンパクト性、ジョイントレス果柄を有する多収性品種の育成を目標に、平成4年から育種を開始した。平成8年から組合せ能力検定試験を行った結果、「試交9631」を育種目標にかなう組合せと判断し、「トマト桔梗交29号」の系統名を付して、平成9年から11年に特性検定試験及び系統適応性検定試験を実施した。その結果、機械収穫用の実用品種として有望と判定され、平成12年10月に、とまと農林交30号「なつやしゅん」と命名、公表され、平成16年8月に品種登録された。

品種特性

1. 草姿は心止まり型で、無支柱栽培に適し、開帳度は130cm内外で、コンパクトです。
2. 育成地における改良マルチ栽培での開花までの播種後日数は56日内外で、早晚性はやや早生です。
3. 機械収穫を想定した1回収穫（手振るい一挙収穫）あるいは2回収穫（手どりによる予備収穫後、手振るい収穫）の収穫方法において、多収性を示します。
4. 手どり用品種と同様な完熟果を対象に3~4回収穫する方法においても、「しょうほう」と比較して、腐敗果の発生が少なく多収性を示します。
5. 果実が大きいため収穫、調製作業がしやすく、コンパクトな草姿で、果柄は離層が発達しないジョイントレス果柄を有しているため、機械収穫に適します。
6. 果実は75g程度の球形で、堅いため裂球の発生が少なく、圃場貯蔵性に優れます。
7. 色素遺伝子（og）を保有しリコピン含量が高いため、果汁の色調は赤みが強く優れ、ジュース加工に適します。またリコピンは活性酸素消去能（抗酸化能）が高く、抗ガン作用がある機能性成分として注目されています。
8. 萎凋病（レース1）と半身萎凋病に対して抵抗性を示します。
9. 適応地域は北海道、東北、関東、中部地方です。

栽培上の留意点

1. 着果性は栽培品種と同等かやや優れていますが、着果を確実にするために、健苗を育成し植え痛みを少なくするとともに、着果ホルモン剤による初期花房の着果促進を図ってください。
2. へた離れ性がやや悪いので、株切り後2~3時間程度おいて、萎れさせてから収穫してください。

※ 種子は当センター会員の全国農業協同組合連合会長野県本部及び各JA並びに長野県種苗生産販売協同組合各種苗店を通じ販売しております。

一般社団法人 長野県原種センター

長野市松代町大室2417-3

TEL 026-278-9229 FAX 026-278-9369